

諏訪地域には縄文時代の遺跡が多くあり、平成30年5月には「星降る中部高地の縄文世界～数千年を遡る黒曜石と縄文人に会う旅～」として、諏訪地域から山梨県に至る14市町村の遺跡が日本遺産に認定されました。

市立岡谷美術考古館にも国重要文化財の「顔面把手付深鉢形土器」や貴重な資料が多数收藏、展示されています。同館が、現在の地に移転して今年で10周年となることを記念し、多彩な企画展を開催します。

# 館のお宝を

〈特集〉市立岡谷美術考古館・移転開館10周年



## 『黎明』 武井直也



制作年：1938年  
サイズ：高さ97cm 材質：大理石

ギリシア彫刻を思わせる古典的な雰囲気と神秘的な表情を特徴とし、大理石の風合いが美しい彫刻です。武井直也はブロンズ彫刻の他に大理石彫刻にも名作を残した数少ない作家の一人です。

## 『諏訪湖風景』 高橋貞一郎



制作年：1954年  
サイズ：116.7×91cm  
材質：油彩、キャンバス

下諏訪のあたりから諏訪湖を描いた作品です。風景を面で切り取ったような描き方が端正な雰囲気をもたらしています。高橋貞一郎の晩年の特徴がよく表れた傑作です。

## 『蛸型斑朱銅水盤』 和泉湧清



制作年：1940年  
サイズ：高さ16cm  
直径29cm  
材質：ブロンズ

中国の青銅器「鼎」の様式を受け継いだ作品です。3本の脚は獣足を表し、みずみずしさと躍動感を伝えます。朱色のまだら模様的美しさも見どころです。

## 『水辺の秋』 早出守雄



制作年：1967年  
サイズ：72.7×100cm  
材質：水彩、紙

油彩画を思わせる構成的な画面や力強い筆致は、早出の特徴の一つです。

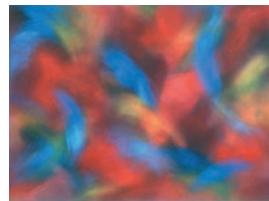
## 『TWIN COLORS Sept-8-2003』 辰野登恵子



制作年：2003年  
サイズ：181.8×227.3cm  
材質：油彩、キャンバス

辰野登恵子は、日本の現代美術をけん引してきた画家です。この作品は辰野の代表作の一つです。輝くような鮮やかな色彩と迫力ある立体感、薄い油絵具を何層にも塗り重ねてできたものです。

## 『95-2-1』 根岸芳郎



制作年：1995年  
サイズ：200×270cm  
材質：アクリル、キャンバス

綿のキャンバスにさまざまな色の絵の具をしみ込ませて描いています。これは「カラーフィールド・ペインティング」という色だけで構成された現代絵画で、根岸は日本ではその分野の代表的な作家です。

市立岡谷美術考古館は、郷土岡谷市の文化遺産、特に美術作品・考古資料などを収集・保存・展示し、文化の向上を図る目的で昭和45年に誕生しました。その後「文化を核にしたまちづくり」の拠点のひとつとして、現在の場所に移転し10年が経ちます。

この間、美術・考古を含めさまざま

information



〈10周年記念企画展〉

岡谷美術の巨匠たち

会期 | 開催中～10月1日(日)

明治以降、多くの美術作家を輩出してきた岡谷の美術界の礎を築いた作家たちの作品を紹介しながら、岡谷美術の歴史を振り返ります。

# 考古

顔面把手付深鉢形土器  
出土：海戸遺跡(岡谷市天竜町)



縄文時代中期  
サイズ：高さ43cm

外側を向いた顔面、くびれた器形が美しく、1989年に国指定重要文化財となりました。顔面把手(土器の口縁部にある装飾)の付いた土器は、甲府盆地東部から八ヶ岳山麓や伊那谷にかけて同時期の遺跡から出土していますが、その多くは顔面が内側を向いています。

国指定重要文化財

ゆうこうつばつきどき  
有孔罎付土器  
出土：花上寺遺跡(岡谷市湊)



縄文時代中期  
サイズ：高さ46.8cm

口縁部に規則的に穴があげられており、赤く塗装されています。かなり大型であり、珍しい文様があるのも特徴です。

長野県宝

つぼ  
壺を持つ妊婦土偶  
出土：目切遺跡(岡谷市長地)



縄文時代中期  
サイズ：高さ14.9cm

妊婦を思わせる外見や壺のような物を持っている特徴から、豊穡や収穫の女神像と考えられています。

岡谷市 指定文化財

小型土偶  
出土：花上寺遺跡(岡谷市湊)



縄文時代中期  
サイズ：高さ4cm

しゃがんだ姿勢はお産の姿を表していると考えられています。これと似た少し大きな土偶が川岸の広畑遺跡から出土しています。

# 紹介しませぬ。



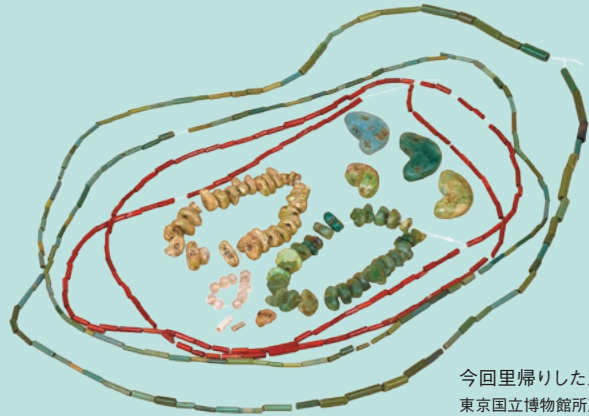
な展示を行い、郷土が誇る芸術作品を市民のみなさんに紹介してきました。10周年記念企画展「岡谷美術の巨匠たち」に合わせ、岡谷市が生み育んだ芸術作品と、代表的な出土品を紹介します。ぜひ足を運んで、これらを始めとする貴重な作品にじかに触れ、岡谷の文化と芸術を感じてください。

明治40年に天王垣外遺跡で発見された玉類は、弥生時代を代表する貴重な文化財として東京国立博物館に移され、長い間収蔵・展示されてきました。

今回の移転10周年を記念し、115年ぶりの里帰りを果たした玉類を期間限定で、一堂に展示します。



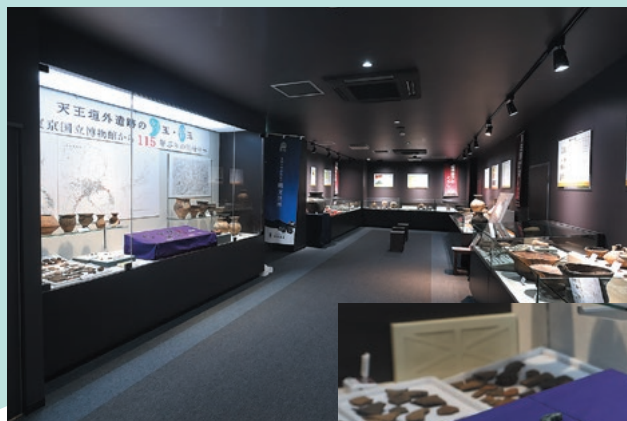
# おかえり！ 百十五年ぶりの



今回里帰りした玉類  
東京国立博物館所蔵  
Image : TNM Image Archives

現在の中央通りとなる村道の開通工事中に、一つの壺が発見されました。発掘の際に壺は割れてしまいました。その中には300個以上の玉類が入っていました。発見された貴重な玉類は弥生時代のもので、当時の平野村役場、長野県庁を経由して、帝室博物館（現在の東京国立博物館）に金参拾円で買い上げられ、現在まで収蔵・展示されています。

「いつ、どこで発見？  
そして、どうして東京へ？」  
てんのうがいといせき  
明治40年8月、  
天王垣外遺跡



市立岡谷美術考古館での展示の様子



勾玉  
東京国立博物館所蔵  
Image : TNM Image Archives

information

# 考古



## 〈10周年記念企画展〉

天王垣外遺跡の勾玉・管玉

～東京国立博物館から115年ぶりの里帰り～

会期 | 開催中～9月18日(月・祝)

東京国立博物館所蔵の岡谷市天王垣外遺跡出土の玉類を展示しています。

# 帰って来た！

# マガタマ・クダタマ

## 「弥生時代、岡谷にはクニがあった？」

### 里帰りした天王垣外遺跡の玉類

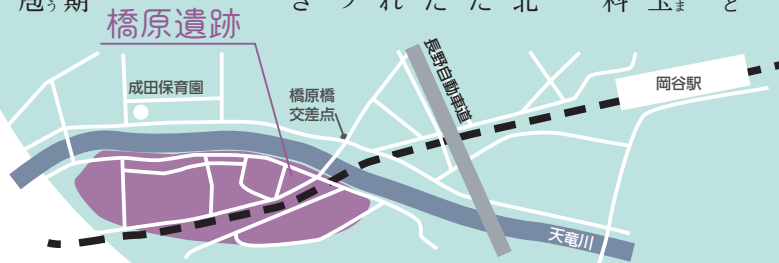
※勾玉66個、管玉283個、水晶製小玉10個、壺形土器など

これほど大量の玉類が出土した例は県内でも珍しく、大変貴重なもので、勾玉は硬玉製、管玉は緑色の碧玉製と赤色の鉄石英製で、どれも岡谷の周辺には原料となる石がありません。では、この玉類はどこからやってきたのでしょうか。

弥生時代中期に玉類が加工されていた遺跡は、北信地域や佐渡を含む越後、北陸地方で知られています。これらの場所の近くにはその原石があり、加工されたカタチも似ています。水晶製小玉は、現在の京都府京丹後市の遺跡で加工されたものとよく似ており、近畿地方以外で発見されることはまれで、岡谷で発見されたことは大きな意味を持ちます。きれいなカタチに整えられた貴重な玉類は、ネックレスなどの装飾品として用いられたと考えられており、それを持つことができたのは大きな権力を有した集団または大王(おおきみ)のような存在でした。

## 橋原遺跡の稲作と、玉類発見の謎

もうひとつ、岡谷の弥生を知ることができるのは橋原遺跡です。弥生時代後期の集落遺跡で、昭和53年～55年の大規模な発掘調査では、弥生土器や石器(石庖丁・石斧など)、炭化米約48kgなどの遺物が出土したほか、竪穴住居址が58棟見つかりました。このとき発掘されたのは遺跡の一部であり、水田の跡は見つかっていませんが、橋原には稲作を中心とした大規模な集落があったと考えられます。これらのことから弥生時代の岡谷には、周辺と比べて大きなチカラがあり、「クニ」と呼べるような大規模な集落があったと考えられます。



水晶製小玉  
東京国立博物館所蔵  
Image : TNM Image Archives

本展は国立博物館収藏品貸与促進事業の特別協力を受けています。

この事業は国立博物館が全国の美術館・博物館に対し、地域ゆかりの収藏品を貸し出し、文化財活用センターが輸送費等を支出する事業です。



市立岡谷美術考古館では、美術作品を展示するだけでなく、新人作家の発掘・育成のための活動や、市民のみなさんに美術を身近に感じ、楽しんでもらえるよう、ワークショップを開催するなどのさまざまな取り組みを行っています。

Art

# 美術

## 新人作家発掘プロジェクト

### 「育成展」

作家として認知されるためには、多くの人に作品を観てもらおう機会が必要ですが、若手や駆け出しの作家には展示会場の長期確保は大きな負担となります。そのため、市立岡谷美術考古館では、平成30年度から新人作家を発掘することを目的とした「若手アーティスト育成展」を開催し、市内出身および在住、または当市に関わる題材を扱う、将来性のある若手作家に作品公開の場を提供し、さらなる飛躍のきっかけとなるよう支援

してきました。令和3年度からは年齢制限をなくし、多くの作家にチャンスの間口を広げています。選考された作家には企画展示室を約1カ月間無料で貸し出し、さらにチラシを県内各所へ送付するなどの幅広いPRを行い、経済的支援を含め作家活動を多角的に支援しています。

地元からの新しい芸術の創出も美術考古館の使命のひとつと考え、これからも作品展示のための貸館や芸術文化にかかわる相談に応えていきます。



記憶の型枠「EMPTY No.18」

表現を規制せずに受け入れる岡谷美術考古館のスタンスに感銘し、改めて自分自身と向き合う機会をいただいたことで、さらなるビジョンが見えたと感じています。



令和3年度選考作家  
渡邊 忠(わたなべ ただし)さん

東御市在住

展示室に約1トンのモルタルとコンクリートを持ち込み、『記憶の型枠「EMPTY No.18」』を表現。その公開制作のようすを海外のギャラリーでライブ配信した。その後、中国の西安、ロサンゼルス、東京など国内外で個展、ライブパフォーマンスを開催。

あなたの作品を美術館で！

## 「ミニチュア展」

令和4年度に「ちいさくてもいいじゃないかみんなの0号作品展」と題し、

一般の人から小さな作品を募集し、一堂に展示しました。本展には、子どもから大人までの100名を超える応募がありました。その作品はどれも身近に飾って楽しめるような小さなサイズであり、多様な題材、材質、技法でそれぞれに輝きを放っていました。移転開館10周年となる令和5年度も、「ちいさくてもいいじゃないかみんなのミニチュア作品展」とタイトルを改め、同様の展覧会を開催予定です。多くの人の丹精込めた力作をお待ちしています。

作品募集期間  
9月1日(金)～10日(日)  
展覧会期間  
10月26日(木)～12月24日(日)  
※詳しくはQRコードからご覧ください。



## 次の10年に向けて 新たな挑戦



令和4年度の展示

# 誌上！“10年のあゆみ ポスター展”

10年間の企画展の  
ポスターです。  
記憶に残る展示は  
ありますか？



2013年



2014年



2015年



2016年



2020年



2019年



2018年



2017年



2021年



2021年



2021年



2022年



2023年



リニューアルオープンから10周年を迎えるにあたり、これまで多くの企画展を開催してきました。これからも郷土に根ざした美術考古館として、美術・考古の双方の魅力を発信できるように努めていきます。ぜひ、気軽に足を運んでください。

## 問合せ

市立 岡谷美術考古館  
TEL: 22-5854

## information



### 〈特別企画展〉

SAORI KANDA ART exhibition  
" 龍と女神と絹の道 "  
諏訪湖の龍に誘われ女神がひらく芸術展  
会期 | 開催中～9月18日(月・祝)  
音楽に合わせて踊りながら絵を描く踊絵師  
神田さおりさんの作品展です。